

共同生活 住人結ぶ「信頼」

多摩の集合住宅 5年

居住者が台所や食堂などを共用する賃貸の集合住宅「コレクティブハウス聖蹟」(多摩市)が今春、入居開始から5年を迎える。居住者一人一人が、食事の調理や掃除などを受け持つ「ゆるやかな共同生活」が、単身者や子育て世帯に安心感を与えているようだ。

単身者ら 台所など共用

■13世帯30人

大学非常勤講師の女性(56)は母親の介護を終え、「二人で孤立するのは避け

たい」と単身で入居して、2年半になる。昨年12月、自室で夜に右肩を脱臼して動けなくなったが、同じ階の居住者に救急車を呼んでもらい、事なきを得た。「いつでも頼れるという安心感がある」と話す。

同住宅は京王線聖蹟桜ヶ丘駅近くにあり、2階建て。20の住戸(25〜50平方メートル)はそれぞれ台所や浴室、トイレを備えているが、ほかに、広い台所や食堂、屋上菜園などの共用スペース(計約120平方メートル)を持つのが特徴だ。NPO法人「コレクティブハウジング社」(豊島区)が手がけ、2009年に入居が始まった。現在は、単身者や子育て中の夫

婦など、計13世帯30人が入居している。

■組合作り自主運営

共に暮らすための仕掛けは、建物の造りだけではない。当初の居住者は入居前から集まり、「どんな暮らしにしたいか」を話し合っ

て、共用スペースを使う上でのルールも自分たちで決定した。入居後は組合を作って自主運営。一人一人が役割分担し、交代で、共用スペースの掃除や戸締まり、希望者が月に15日ほど夕食を共にする「コモンミール」の調理当番を担う。全体の定例会に加え、各係のミーティングなど、話し合いに相応の時間を割く。1年前に入居したNPO職員の阪野朋子さん(31)は、「手間はかかるが、その分、住人同士の信頼が芽生えていくのが分かる」と話す。

■地域との交流も

昨年暮れには、同住宅の

前で子どもから高齢者まで40人ほどが集まって餅つきを楽しんだ。居住者の有志が企画したイベントで、近隣住民にも参加を呼び掛けた。小学2年の長男がいる矢田浩明さん(42)は、「地域との交流も広がってきている。子どもが見守られて育つのにいい環境だと実感している」と言う。

現在、空き室があり、入居者を募集中。同NPO法人理事の狩野三枝さんは、「共同生活の秘訣は、多様な人が集まって生まれる面白さを共有できるかどうか」と助言する。

問い合わせは、同NPO法人(03・5906・5340)へ。



共用スペースでコモンミールを食べる居住者たち(コレクティブハウジング社提供)